



「福澤育林友の会」 ニュース

第39号 発行日2021年1月10日

福澤育林友の会

東京都港区三田2-15-45 慶應義塾 管財部内

TEL: 03-5427-1050 FAX: 03-5427-1190

<http://ikurin.jp/>



「2021 年の新春を迎えて」

福澤育林友の会

会長 渡部 直樹

(慶應義塾常任理事)

2020 年は covid-19 の感染による波乱の年でした。迎えた 2021 年では、多くの困難な問題が解決され、世界にとって平和で安全な年となることを願うばかりです。

今年の干支は丑(うし)です。丑の意味は「からむ」という意味で、芽が種子の中で伸びることができない(耐え忍ぶ)状態を表しているとのことです。コロナ禍の現在、私たちはこれをよりポジティブに捉え、「今は耐え忍び、次なる発展に備える年」と考えたいと思います。

私事ではありますが、私も 6 回目の年男となりました。この歳まで無事に健康でいられたことに感謝している次第です。歳をとることは良いことばかりではありませんが、歳を経るごとに良さを増すものがあります。それは木製の弦楽器です。書斎の片隅にいくつか楽器ケースが置かれていますが、そのケースの 1 つに私より何倍も歳をとったヴィオラが入っています。ヨーロッパのどこかの地で自生していた大木が伐採され、イタリアの工房でヴィオラとなり、その後何人ものプレーヤーの手に渡り(顎に挟まれ)、今は海を渡り東洋の辺境の地の超ヘタクソなアマチュアの所有物になっています。

木製弦楽器の良さは、空気を伝わって流れてくる音の響きにあります。私は、それを楽しむには最高質のオーディオでも難しく、生演奏である程度は可能になるものの、その響きを存分に楽しむには、直に楽器を手に取り、五感を通して音を感じることに尽きると考えます。その響きは、楽器が古くなればなるほど味わい深くなりますが、それが可能になるには、楽器が定期的に正しく調整されている必要があります。それを怠ると、すぐに結果が出て鳴りが悪くなります。年を経た楽器も例外ではありません。私も、今や忙しさに感けて、楽器に触れる機会も本当に少なくなりました。たまに手に取っても、調弦しただけで、すぐにゴメンネと楽器に謝って、ケースにしまうということが多くなりました。

木製の作品は、息をしている、生きてるとよく言われます。実際、手をかけることで品質を維持し、より素晴らしいものに成長させることもできます。もちろん、材料となる森林も同様、手をかけて育てれば、様々な形で一楽器から発電、そして人類の課題の解決まで一私たちの暮らしを豊かにしてくれると思います。まさに、元々の漢字の丑の字が示すように、種の中の芽が伸びて大きく成長する、そういったことが可能になると期待できるのです。

今年の丑年が皆さんにとって、耐え忍ぶことがあっても、それがより良い未来に繋がる年になりますよう、心よりお祈りいたします。



2021 年度「森を愛する人々の集い」について

新型コロナウイルス感染症流行の影響により、2020 年度の「森を愛する人々の集い」は中止とさせていただきますが、現段階においては、2021 年度の実施に向けて、準備を進めております。講師は昨年度ご登壇いただく予定となっておりました、西原智昭氏にお願いをしております。なお、下記に概要を記しておりますが、今後の流行状況によっては、大幅な計画変更や中止の判断をする可能性がありますので、予めご了承ください。

【皆さまへのご案内は 5 月中旬を予定しております】

日 時：2021 年 6 月 26 日(土)
場 所：三田キャンパス
講 師：西原 智 昭 (ニシハラ トモアキ) 氏

【プロフィール】

星槎大学共生科学部特任教授

国際保全 NGO である WCS (Wildlife Conservation Society; 本部はニューヨークにある) の
自然環境保全研究員

京都大学理学部人類進化論研究室出身、理学博士

『先住民と森林の問題や絶滅しようとしている野生生物の保全等にコンゴ共和国、ガボン
などアフリカ中央部熱帯林地域で 30 年間暮らしながら従事して来た』

お知らせ

〈慶應義塾管財部より〉

福澤育林友の会会則において、目的の一つとして定められた「**慶應義塾の学校林の保育に関する支援を行う。**」に基づき、2019 年度末での残余金の一部を慶應義塾に対して寄付していただきました。皆様の温かいご支援に心より感謝申し上げます。

以下、寄付金の活用事例の一部をお知らせいたします。

第 35 号ニュース(2019 年 1 月 10 日発行)で、使途の一例として、友情資産 25 年の森(2001 年設置)の看板更新について紹介させていただきましたが、2020 年においても、同様に寄付金を充当しまして、看板の更新を実施させていただきました。

2019 年秋に、慶應義塾所有林の和歌山清水の森(1997 年設置)において、山林の一部崩落が発生しました。その結果、当該箇所を設置されていた看板に倒木があたり、破損する事態となりましたので、地盤が緩んだ崩落地点を避け、新たな設置箇所の樹木を伐採するなど整備し、看板を再設置しました。

自然災害の脅威は、年々、質・量ともにますます一方であり、学校林の保育に関する支出は継続的に発生するものと見込まれますので、今後ともご支援いただきました寄付金を有効に活用させていただきたいと考えております。

引き続き、ご理解・ご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。



破損した更新前の看板



更新後の看板